

HK-3型 加熱試験器使用説明書

(性能評定番号 評14-345号)

はじめに

このたびは、当協会の試験器をお買い求めいただきまして、ありがとうございます。

この使用説明書は、HK-3型 加熱試験器を正しく、安全にお使いいただく為に、使用方法や注意事項などを記載しております。

必ず最後までよくお読みになり、十分ご理解いただいた上で、ご使用下さい。

安全上の警告 ⚠

	引火性の高いベンジンを使用していますので、火災の恐れがあります。
	火口部分は高温 (200℃～270℃) になりますので素手で触れたりすると火傷の恐れがあります。
	受変電施設や架線部分などの高電圧場所や商用電源配線等においても裸線の場所は感電の恐れがあります。
	支持棒の使用時、バランスを崩し怪我や死亡事故を発生する恐れがあります。
	支持棒の伸縮時、支持棒のつぎ目に手をはさみ怪我をする恐れがあります。

使用上の注意 ⚡ (禁止事項) ⚠ (要実施事項)

	校正期間内のものを必ず使用して下さい。 また、評定マークや次期校正年月等のシールのはがれや汚損がないようにして下さい。 詳細は『試験器の校正』参照
	ハクキンカイロ用ベンジン以外の燃料を使用しないで下さい。 また、規定量以上の給油は絶対に行わないで下さい。 詳細は『燃料の給油方法』参照
	未使用時には必ず消火し、安全な場所に火口が上を向くよう、水平に置き保管して下さい。 詳細は『点火及び消火方法』参照
	アルミ製の支持棒は感電の恐れのある場所では絶対に使用しないでください。
	グラスファイバー製の支持棒を感電の恐れのある場所で使用する場合は、必ず所定のゴム長靴・ゴム手袋を着用し、二重の安全策をとって下さい。
	支持棒の伸縮時は、つぎ目に手をはさまないように、注意をはらい作業を行ってください。
	支持棒を急激に倒し、途中で止めたりしますと、つぎ目部分に大きな加重がかかり、折れや割れを生じますので、大きな加重がかからないよう丁寧に扱って下さい。
	可燃物が隣接している所では点火しないで下さい。

使用方法

燃料の給油方法

1. 燃料の種類

ハクキンカイロ用ベンジンを必ず使用して下さい。

他の可燃性燃料のほか、染み抜き用ベンジンについては火口を極度に劣化させる恐れがありますので、絶対に使用しないで下さい。

ハクキンカイロ用ベンジンは下記等で購入いただけます。

ハクキンカイロ株式会社 電話 06-6459-1020

2. 給油量

初回の給油は40mL以下を厳守し、2回目以降の給油に関しては、下表を参考に給油を行って下さい。

使用時間が不明な場合の給油の目安は、『感知器の発報までの時間が長くなるなど、火力低下が感じられた時点で、燃料タンク内の脱脂綿を指で押したときに染み出し、指が若干湿る程度までの給油』とし、それ以上の量の給油は絶対に行わないで下さい。

なお、給油時は必ず周囲に火気の無い安全な場所で行って下さい。

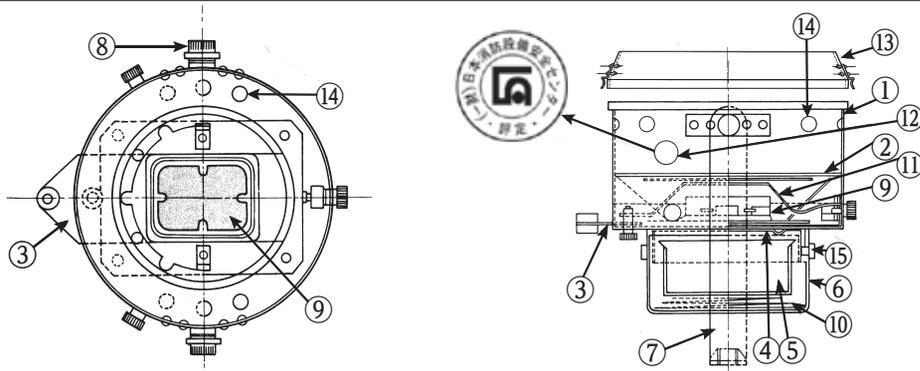
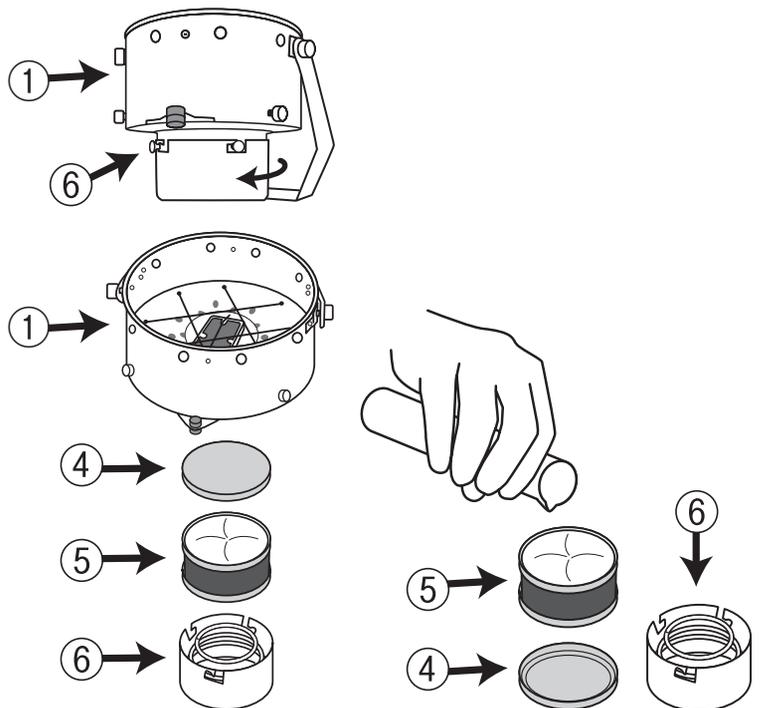
感知器の種類	燃料10mL当たりの使用時間
定温式感知器	1.0時間
差動式感知器	1.5時間
補償式感知器	

3. 給油方法

タンクの保持筒⑥を押し上げるようにしながら左に回し、燃料タンク⑤、消火キャップ④を取り外した後、上記の給油量を燃料タンク内の脱脂綿に給油して下さい。

取り外した消火キャップ④は紛失を防ぐ為、燃料タンク⑤の下部に添えて装着して下さい。

なお、給油は必ず周囲に火気の無い安全な場所で行って下さい。



凡 例

- | | |
|------------|--------------|
| ① 外筒 | ⑨ HK-3型専用火口 |
| ② 反射板 | ⑩ スプリング |
| ③ 温度調節板 | ⑪ 火口脱落防止用ピン |
| ④ 消火キャップ | ⑫ 評定マーク |
| ⑤ 燃料タンク | ⑬ 補助筒(アダプター) |
| ⑥ タンク保持筒 | ⑭ 対流口 |
| ⑦ 本体支持金具 | ⑮ ピンナット |
| ⑧ 支持金具取付ネジ | |

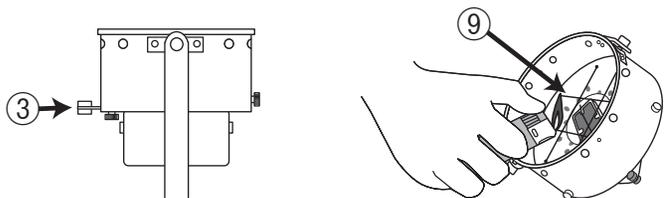
点火及び消火方法

1. 点火方法

温度調節板③を最大に押し込み、試験器を斜めに倒し、試験器の周囲に燃料漏れの無いことを確認後、火口⑨にマッチ又はライターで点火して下さい。(炎は見えませんが、火口⑨部分に手をかざすと熱く感じることで着火を確認できます。)

点火作業を10秒程度以上継続しても着火されない場合は、燃料不足又は火口の劣化が考えられますので燃料量の確認を行い、燃料量に不足が無い場合は火口を交換して下さい。

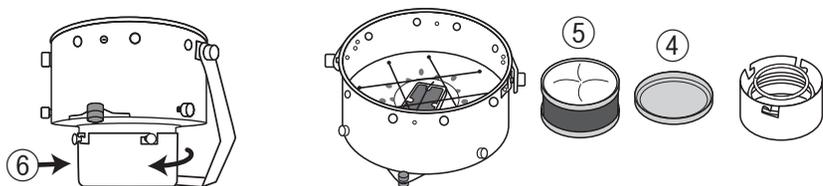
なお、点火後、周囲に火気の無い安全な場所で、燃料漏れないことを再度確認して下さい。



2. 消火方法

タンク保持筒⑥を押し上げるようにしながら左に回し、燃料タンク⑤を取り外し、消火キャップ④を燃料タンク⑤の口にかぶせて装着した後、消火を確かめて下さい。

なお、消火後もしばらく火口や外筒が高温となっていますので火傷等に注意し、温度が下がるまで周囲に可燃物等のない安全な場所に火口が上を向くよう、水平に置き保管して下さい。



感知器の試験・点検方法

1. 支持棒の取り付け

試験対象の感知器の設置高さに応じて支持棒の選択を行い、支持棒の取り付けを行って下さい。

なお、受変電施設や架線部分・商用電源線の裸線部等感電の恐れのある場所の試験・点検時はグラスファイバー製支持棒を使用し、必ず所定のゴム長靴・ゴム手袋を着用し、二重の安全策をとって下さい。なお、アルミ製支持棒は絶対に使用しないで下さい。

2. 補助筒・フェンオール用外筒の装着

フェンオール製垂直型以外の定温式感知器を試験する場合は外筒①をフェンオール用外筒に交換、また高さの高い感知器や感熱部保護に樹脂を使用している感知器を試験する場合は、補助筒⑬を外筒①の上部に確実に装着して下さい。

3. 火口への点火及びその他の操作

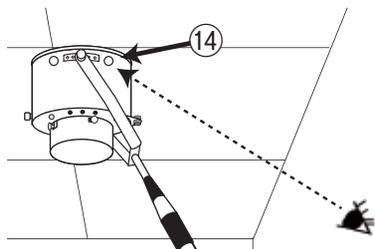
前記の『点火方法』に従い火口への点火を行って下さい。次に、支持棒支持金具や取り付け金具等各部の締め付けに脱落等の可能性のある緩みがないかを確認して下さい。

火力が安定した状態を確認後、試験対象となる感知器の種別に応じて温度調節板③の操作を行って下さい。

試験対象感知器	温度調節板③の位置
定温式感知器	最大に押し込んだ位置
差動式感知器	最大に引き戻した位置
補償式感知器	

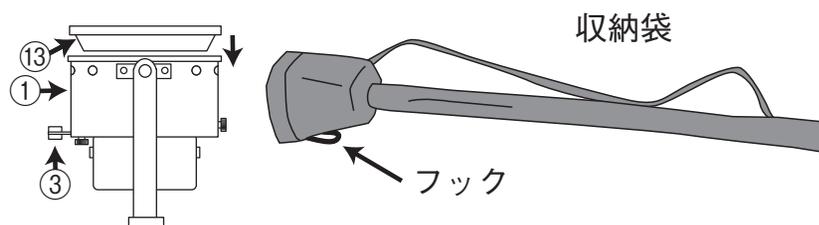
4. 感知器作動の確認

感知器の作動試験時、試験器の上部対流口⑭より感知器作動表示灯の点灯の有無を確認して下さい。



5. 試験器の収納

使用後、試験器が低温となってから、補助筒⑬を下図のように逆さまに外筒①にかぶせ、温度調節板③が収納袋のフック側になるよう、収納袋に挿入して下さい。



6. その他の注意事項

- ・補助筒等の取り付け時は必ず消火し、試験器が低温になった状態で行って下さい。
- ・火口への点火後は補助筒・外筒内部等が高温となっていますので、火傷などに気をつけて下さい。
- ・1個の感知器を継続して必要以上(5分以上)、加熱しないで下さい。(感知器が変形・損傷する可能性があります。)
- ・試験器の未使用時は必ず消火し、安全な場所に火口が上を向くよう、水平に置き保管して下さい。
- ・アルミ製支持棒および試験器のアルミは比較的柔らかい金属です。使用時にぶつける、力を加えるなど変形させないように、ご注意ください。
- ・アルミ製支持棒のつなぎ目のねじ込み時は、道具を使用せず、ゆっくり手で回して締め込んで下さい。
- ・支持棒の伸縮時、支持棒のつなぎ目に手をはさみ、怪我をする恐れがありますので、つなぎ目をおさえての伸縮は行わないで下さい。
- ・支持棒を急激に倒し、途中で止めたりしますと、つなぎ目に大きな荷重がかかり、支持棒を損傷する恐れがありますので、丁寧にゆっくり扱って下さい。
- ・支持棒のつなぎ目等には油成分が付着しないよう注意して下さい。
- ・使用途中での燃料の補給は、必ず消火し、試験器が低温となった状態で行って下さい。

保管とお手入れ

1. 脱脂綿の乾燥

長期間使用していると燃料タンク⑤内の脱脂綿に水分が溜まり、着火しにくくなりますので、毎日数時間程度の使用の場合、2～3週間毎に脱脂綿を取り出し天日干して下さい。

2. 反射板の清掃

長期間使用しますと反射板が汚れます。この反射板の汚れにより感知器の加熱効果が低下しますので、反射板に汚れが生じた場合は外筒①を取り外し、乾いた布で清掃して下さい。

3. 火口の交換

外筒①と反射板②を取り外し、火口脱落防止ピンを外して交換して下さい。

なお、新しい火口は当協会にて販売しております。

保管方法

1. 必ず消火し、安全な場所に火口が上を向くよう、水平に置き保管して下さい。
なお、長期間の保管時は燃料タンク⑤内の燃料を全て蒸発させ空の状態にして保管して下さい。
2. 試験器・支持棒ともに錆やカビを発生する可能性がありますので、乾燥した状態で高温とまらない場所に保管して下さい。

試験器の校正

本試験器は消防法に基づく自動火災報知設備等の作動試験にご使用いただく熱感知器用の加熱試験器です。従って下記のことにご注意下さい。

1. 評定マーク⑫や次期校正年月等のシールのはがれや汚損がないようにして下さい。
2. 加熱試験器の校正期間は10年です。必ず試験器に記載された校正期間内のものを使用して下さい。(期間満了前に再校正の手続きが必要です。(有料))

一般社団法人 **東京防災設備保守協会**
(略称)保守協会

〒162-0805 東京都新宿区矢来町8-1番地の3
電話 03-5261-4170 FAX 03-5261-4165
<http://www.hosyu-kyokai.or.jp>